

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：家畜保健衛生費

事業名 高度病性鑑定費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 家畜防疫対策課 防疫指導係 電話番号：058-272-1111(内4159)

E-mail：c11449@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 21,031 千円 (前年度予算額： 20,045 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	20,045	0	0	14	0	0	0	0	20,031
要求額	21,031	0	0	15	0	0	0	0	21,016
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

・国内では、口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザなど、家畜伝染病予防法により特に総合的に発生の予防及びまん延の防止のための措置を講ずる必要があるとされている家畜伝染病が継続的に発生しており、平成30年9月には、岐阜県において国内26年ぶりとなる豚熱が発生。

・家畜防疫の円滑な推進のため、家畜保健衛生所の病性鑑定機能を維持するとともに、県内で発生する家畜疾病や畜産経営の損害起因事案の原因究明、様々な病性鑑定に迅速、的確に診断するための体制を整備する必要がある。

(2) 事業内容

県内において家畜伝染病や原因不明の疾病が発生した際に、家畜保健衛生所（中央・飛騨）において各種疾病の高度かつ精密な検査・診断を実施する。

<実施する検査の内容>

- ・高病原性鳥インフルエンザモニタリング検査：抗体検査(毎月)
- ・ウイルス性疾病の検査：ウイルス分離、遺伝子検査（PCR検査）など
- ・細菌性疾病の検査：細菌分離及び同定、遺伝子検査（PCR検査）など
- ・病理検査：解剖及び組織標本による病理学的検査を実施
- ・B S E 検査：検査が必要な死亡牛のBSE検査を実施
- ・生化学検査：血中のビタミンの測定など
- ・遺伝病検査：クローディング16欠損症、IARS異常症の遺伝子検査

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・県において全額負担

(4) 類似事業の有無

- ・無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
需用費	14,046	検査用消耗品、燃料費、修繕料
役務費	1,147	遺伝子検査外部委託、機器校正
委託料	5,745	ダイオキシン類測定、廃棄物運搬・処分
使用料	93	高速道路料金
合計	21,031	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略（2023～2027）
 - 2 健やかで安らかな地域づくり
 - (2) 安らかに暮らせる地域
 - ⑥災害と危機事案に強い岐阜県づくり
- ・「ぎふ農業活性化基本計画」(R8～12)（仮称・令和8年3月策定予定）
 - 基本方針4 安心できる農畜水産業と農村の環境整備
 - 4 生産を脅かすリスクへの対応
 - ①家畜伝染病に対応できる畜産産地づくり

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

家畜伝染病を迅速かつ的確に診断し、農家の生産性の向上及び安全・安心な畜産物の確保に努めることにより、畜産経営の安定と発展に寄与する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

家畜伝染病を迅速かつ的確に診断することが目的であるため、数値により目標を設定することは適さない。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	中央家畜保健衛生所及び飛騨家畜保健衛生所において、家畜伝染病予防法に基づく疾病及び人獣共通感染症等に係る高度かつ精密な検査及び診断を実施し、発生農場における疾病対策や伝染病のまん延防止に寄与することができた。
令和5年度	中央家畜保健衛生所及び飛騨家畜保健衛生所において、家畜伝染病予防法に基づく疾病及び人獣共通感染症等に係る高度かつ精密な検査及び診断を実施し、発生農場における疾病対策や伝染病のまん延防止に寄与することができた。
令和6年度	中央家畜保健衛生所及び飛騨家畜保健衛生所において、家畜伝染病予防法に基づく疾病及び人獣共通感染症等に係る高度かつ精密な検査及び診断を実施し、発生農場における疾病対策や伝染病のまん延防止に寄与することができた。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 2	家畜防疫を円滑に推進するためには、家畜伝染病や原因不明の疾病が発生した際に、病性鑑定を迅速かつ的確に実施する必要がある。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	家畜伝染病などの発生時に迅速かつ的確に診断することで、家畜伝染病のまん延防止や安心・安全な畜産物の供給に寄与することができている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	中央家畜保健衛生所に加え、飛騨家畜保健衛生所においても高度な病性鑑定ができる体制を整備したことで、より迅速な検査・診断が可能となった。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 今後も、疾病の発生予防及びまん延防止のため、突発的に発生する検査案件に対応する必要がある。

(次年度の方角性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 引き続き、高病原性鳥インフルエンザ検査をはじめとした各種検査の推進により、県内の清浄性確認を実施し、県内産畜産物の安心・安全に寄与していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	【〇〇課】